

## 巻頭言

# 病院図書館員の皆さんに期待すること ～人との繋がりが病院を活性化する！～

名古屋第二赤十字病院 院長  
石川 清

まず始めに、日赤図書室協議会の皆様には、20年以上にわたって、『日赤図書館雑誌』の刊行、研修会の開催等はじめ数々の活動をしてこられたことに対して敬意を表したいと思えます。このたび、『日赤図書館雑誌』の巻頭言を書かせていただく機会を頂いたことに対して感謝をいたします。ご依頼を受けたタイトルは「病院図書室に期待すること」でしたが、病院図書室のあり方に大きく影響を及ぼすのは、むしろ、病院図書館員の皆さんです。「病院図書館員の皆さんに期待すること」といたしました。

最近の病院を取り巻く医療情勢を考えてみますと、2025年問題と国の医療政策、病床機能報告制度と地域医療ビジョン、DPC制度、専門医制度、さらには、多くの病院が陥っている病院経営の危機の問題等々、病院にとって激変の時代であり、何が正解か分からない、先の見えない混沌とした状況にあるかと思えます。病院の一部門である病院図書室についても同様で、電子ジャーナルの普及、インターネット環境の進歩、IT技術の進歩、情報の多様化、地域医療ビジョンの中での病院の担うべき役割と図書室の役割、さらには、病院経営の危機下での図書室の運営等々、従来の

病院図書室の運営を大きく左右する環境の変化が起こっています。

こうした激変の医療環境の中、病院職員、病院図書館員にとって、何が一番求められているのでしょうか？

コーチング会社(株)コーチ・エイのコーチング研究所が実施した98社の組織調査の結果によれば、組織が変化する時には、新しい考え方や方法を導入することが必要であり、その際に重視されるのは、職員間の繋がり、目標達成への期待、組織運営の仕組み、リーダーからの発信、リーダーへの信頼の順であるとされています。すなわち、組織の変化に重要であるのは、リーダーの影響力よりも、お互いに影響しあう職員間の繋がりであるということです。さらには、職員間の繋がりの中で、特に、重要とされる項目は、異なる意見であっても相手の話を聞こうとする意思があること、自分が得た情報や経験を積極的に職場の職員と共有すること、違う部署の職員でも領域を超えて協力し合うという繋がりがあること、等々です。変化する組織には、上記のような職員間の繋がりが大切であり、これらを満たしている組織は、相手の部署や領域を限定せずに、積極的に職員同士が繋がりを築いていくことができます。新しい変化には新しい視点が必要であり、それには多様な繋がりが有

ISHIKAWA Kiyoshi

効であるということです。職場で意見の異なる相手の話を聞く、些細なことでも積極的に情報を共有する、他部署の同僚と普段の領域を超えて協力する、職員のこうした日々の関わりによって創られる繋がりが組織の変化になくってはならないということです。

一方、医療界は一般企業と異なり国家資格を持ったプロ集団の集まりであり、それぞれの職種の専門性が重視され、職種間の壁をなかなか打ち破れない状況が多々ありました。また、職位が重視され権威や権限が蔓延る古い体質も依然として残っています。そういう状況の中、近年の医療界では、チーム医療の推進、新しい医療職の誕生、医療者・患者関係の変化など様々な変化が起こっています。そのため病院職員には職種や職位の壁を取り払い、それぞれの個性を尊重しながら、その個性集団がまとまり、同じ方向にベクトルが向かねばなりません。そのためには、従来、当然とされていた権威や権限を超えて、また職種や職位を超えて、対話によって相手を動かす新しい形のコミュニケーションスタイルが求められるようになりました。

病院図書館員の皆さんは、日頃から様々な職種や職位の人たち、さらには、他施設の人

たちと接する機会がある立場におられるかと思えます。旧態依然とした古い体質の残る医療界、あるいは、激変する医療環境の中で、病院図書館員の皆さんに強く求められているのは、人との良好なコミュニケーションを保ち、人との繋がりを大切にすることであり、さらには、様々な変化に対しては、主体的に物事を考え行動する力を持ち、柔軟に対応できる素養を養うことかと思えます。各病院の病院図書館員の皆さんがこういう素養を備え、激変する時代を乗り越えて頂くことを願って巻頭言とさせていただきます。

#### 【参考】

当院が3年前から取り組んでいるコーチングは、こうした素養、すなわち、個人にとっては、主体的に物事を考え行動する力、リーダーシップを発揮するスキル、また、組織にとっては、スタッフ間の良好なコミュニケーション、その結果、組織間の壁を取り払い、組織改革に至るためのスキル、あるいは成果を得ることが出来ます。こういった点を考えれば、医療界にはなくてはならないスキルで、一般企業よりもむしろ“医療界にこそコーチング導入が必要である”と考えています。